

# 法政大学鴻山文庫蔵「鷺流間狂言付」(五〇一三)

富山隆広・李蘇洋・黒沼歩未・伊海孝充

## テキストデータ用【凡例】

一、本冊は、法政大学鴻山文庫蔵「鷺流間狂言付」(五〇一三)を翻刻する。

一、「鷺流間狂言付」については、底本を忠実に翻刻することを原則としたが、作業上の制約や読みやすさを考慮し、次の方針をとった。

1、漢字と仮名の別、仮名遣い、送り仮名は底本通りとした。ただし、仮名として使われている「子」「日」を片仮名で翻刻した。

2、異体字・旧字体は原則、新字体や通行の文字表記に改めた。ただし、「嶋」「躰」「條」「泪」「歎」などは底本どおりとした。なお、ワープロソフトで表示されない漢字は片仮名翻刻した箇所もある。

3、片仮名・平仮名の別も底本どおりとした。また変体仮名は仮名に改めたが、「候得」「何茂」

などは底本どおりとした。

4、誤字はその下に正しい字に「」を付して示した。また同音異字の当て漢字を用いている箇所(例：棟梁が統梁と表記されている)にも、極力同様の処置をした。ただし、踊り字に関しては、断らず通行のものに改めた。

5、欠損箇所・難読箇所は□と表記した。

6、振り仮名は「」で表し、本文中に挿入した。漢字の送り仮名は底本どおりに表記した。

7、ミセケチ部分はへを付した。訂正が示されている場合は、( )を付して挿入した。

8、底本には脱字が傍記されていることがある。その語句は《》に入れて、本文中に挿入した。また脱字以外の傍記と翻刻者の注記は、【】を付した。

9、底本には役変更を示す庵点や句点、曲番号が朱書きされている。これらはすべて他の本文と同様に翻刻した。校訂者が補った箇所はない。ただし、末の【本書に挟まれた書付分】には読みやすさを考慮して、句読点を補う。

10、底本には、謡の節とアクセントに節博士を用いて傍記している箇所があるが、データではすべて省略した(節博士はPDFデータには示している)。

テキスト

11、漢字に濁点がある箇所は、その漢字の上に「#」を付した。

12、書き入れ部分と【本書に挟まれた書付分】では、適宜本文部分に「」を補った。

13、底本の割注や小文字は、すべて地の文と同じ大ききで翻刻した。